

令和5年度 第2回富士宮市総合戦略有識者会議
各委員からのご意見・ご提案・ご質問 まとめ

(1) 令和6年度地方創生関連事業についてのご意見・ご提案・ご質問

【基本目標1】「住んでよし」の安全・安心なまちを創造

【鈴木委員】

- ・ 公共施設について、文化会館が休業となる際、代替施設の利用のあっせんについても、利用者に対して分かりやすくしてもらえるようお願いしたい。

【藁科委員】

- ・ プラスチックごみの分別収集は市民にとって大きなこと。市民の中には広報等にたどり着くまでにハードルがあるため、LINE などを使った周知を徹底してもらいたい。

【基本目標2】「訪れてよし」の魅了するまちを創造

【太田委員】

- ・ 若者チャレンジ支援施設運営事業について、どのような利用が可能となるのか。
→若者が集まることができる場所。マルシェなどのイベントの実施や企画を立てるミーティングを行えるような施設となる。対象は高校生から20代の若者を中心に地域の大人が交流できるようなものとする。

【藁科委員】

- ・ 若者チャレンジ支援施設運営事業について、市内の高等学校の生徒に対しても当施設が使えることを周知してもらいたい。

【基本目標3】「出会ってよし 結ばれてよし」「生んでよし 育ててよし」「学んでよし」のあたたかいまちを創造

【藁科委員】

- ・ 子ども医療費完全無償化は非常に良いこと。楽しみにしている市民がたくさんいると思うので、情報提供できるようになったらしっかりと発信してもらいたい。

【基本目標4】「働いてよし」の活力あるまちを創造

【小林委員】

- ・ 労働者をコツコツ増やすことも大事であるが、100人～200人増えるような企業誘致を行

うことで税収を増やすといった大きなものにも目を向けてほしい。このことで好循環が生まれることが望ましい。

【薬科委員】

- ・ジョブマッチングサイト事業について、周知が大切である。若者がふるさとで働いてもらえるように小、中学生にも伝えられたらと思う。ガイドブックの増刷は難しいと思うが、全市民に届くようにしてもらいたい。

令和6年度地方創生関連事業全般についてのご意見・ご提案・ご質問

【田中（心）委員】

- ・各事業の連動性が非常に大事である。例えば、ジョブマッチングであれば、LINEWORKS などと組み合わせて、何回もコンタクトできるようにするなど工夫があればよい。

(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂についてご意見・ご提案・ご質問

【太田委員】

- ・第5次富士宮市総合計画とも整合性をとっており、合理的な方法で無理なくやっていけるものとの印象を受けた。今後、より一層、自治体間の連携が求められていくと想定されるので、そこを見据えてやっていただきたい。

【小林委員】

- ・基本的にデジタル化というのは、効率化されて人が必要なくなるもの。人口減少対策とリンクしてくるのかは疑問ではある。ダメというわけではないが、国が実施すると言ってくるものに合わせて作っている部分もあり、企画部も大変だなと感じた。

回答

これについては、国の交付金を取っていくためにも改訂が必要であるという理由もある。また、今回の改訂については、あくまで令和7年度までの2年間で実施できるものを拾い出しており、自治体DXについては、第6次総合計画の策定に向けてあらためて検討していく。人口が減少していく中、デジタル化できる部分については効率化を図り、例えば重層的支援体制など人が対面でやらなければならないなど、人に係る部分については厚くすることも大事なことだと考えている。

【伊藤委員】

- ・人口減少が進む中、システム化できるところはシステム化し、人を割かなければならないところは厚くしてほしい。例えば、オンラインの移住相談などをAIで対応するなど、進んだまちに見せることも大切。

また、自治会の担い手不足は深刻である。今回の改訂には入っていなかったが、区の事業について回覧板システムのアプリ化などデジタル化できることで地域の在り方が良くなるものあるのではないか。

【赤池委員】

- ・ AI の使用について、市としてはどう考えるか。観光業界も観光情報アプリの導入も進み QR を読み込むだけとかの観光地も増えてきている。

回答

- ・ AI については、ある程度技術も進んできている中、チャットボットをホームページに設ける方向で動いている。これについては、富士市との共同電算の中でも検討しており、なるべく早くに市民サービスの向上を図りたいと考えている。

【鈴木委員】

- ・ 国の策定に基づいた対応であり、妥当なものであると考える。民間もペーパーレスが進んでいるので自治体としてもデジタル化を推進してほしい。

【藁科委員】

- ・ 学校における VR 体験導入の際は、体験者以外への対応も大切。スマート農業については、うまく導入することで地域の負担が軽減されるよう努めてもらいたい。

【田中（心）委員】

- ・ VR 機器の導入には費用が掛かることは理解している。有益なものが多い反面、健康被害の立証がされていないところもあるので、デジタルリスクの面も意識することが重要。

【全体への回答】

どちらかという、デジタルの活用というのは、デジタルを使っていかに人の減少を和らげるか、もしくは人は増えない中、そこに住む人がいかに心豊かに過ごせるか、ウェルビーイング的な観点が大事となると考える。

国も、来年度に人口ビジョンを見直す中で、人口を維持することよりも減ることを前提に設定することが予想される。今後の政策についても有識者の皆様の知恵をお借りして、更に改善していきたいと考えている。